

大野市高速交通 アクションプログラム

～未来へつなぐまちづくり～



平成 31 年 3 月 策 定
令和 8 年 3 月 第 8 訂

策定及び改訂の経過

平成 31 年 3 月	策定
令和 3 年 3 月	改訂
令和 3 年 5 月	改訂
令和 4 年 5 月	改訂
令和 5 年 3 月	改訂
令和 6 年 3 月	改訂
令和 7 年 5 月	改訂
令和 7 年 10 月	改訂
令和 8 年 3 月	改訂

はじめに

中部縦貫自動車道大野油坂道路については、大野 IC～勝原 IC 間が令和5年（2023年）3月19日に、勝原 IC～九頭竜 IC 間は令和5年（2023年）10月28日に開通しました。

勝原 IC～九頭竜 IC 間の開通前後を比較すると、下山 IC～九頭竜 IC 間の交通量が約1割増加し、道の駅「越前おおの 荒島の郷」では、開通後の1年間で来場者数・売上がともに約1割増加しています。また、荒島 IC 付近に立地する富田産業団地では、令和5年3月に株式会社モンベルの物流拠点が操業を開始し、令和8年6月には2棟目となる物流拠点の操業開始が予定されています。

残る九頭竜 IC～油坂出入口（仮称）間は令和11年（2029年）春の開通に向けて整備が進められており、市内では「星空保護区[®]」の認定を生かした観光誘客や新たな宿泊施設の進出など、開通に向けた準備を進めています。

北陸新幹線については、令和6年（2024年）3月16日に金沢・敦賀間が開業し、1年間で県内の新幹線駅周辺への県外からの来訪者が約2割増加しています。

中部縦貫自動車道と北陸新幹線の整備により、大きな高速交通ネットワークが形成され、人の交流や物流の拡大が見込まれます。

特に、中部縦貫自動車道は、今後発生が危惧されている南海トラフ地震など太平洋側で大規模災害が発生した際に、代替機能を発揮する国土強靱化に必要不可欠な道路であると同時に、中京圏との結び付きがこれまで以上に強まります。

大野市では、人の交流や物流の拡大が見込まれるこの機会を逃すことなく、市民の皆様とともに様々な取り組みを行うことで、人口減少が進む中であっても持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。

本プログラムは、中部縦貫自動車道の県内全線開通と北陸新幹線の金沢・敦賀間開業の前後までに、大野市が取り組む事柄について、市民の皆様と情報共有をするために作成したものです。本プログラムを御覧になられた方々の、それぞれのお立場における取り組みが活性化されれば幸いです。

なお、本プログラムは、事業の進ちょくや新たな施策などに変更が生じた場合には、その都度更新していきます。

目 次

1	中部縦貫自動車道	
(1)	中部縦貫自動車道とは	1
(2)	中部縦貫自動車道の整備効果	3
	①北陸圏・中京圏・関西圏・関東圏を結ぶ広域ネットワークが構築されます。	
	②広域的な迂回ルートと冬期間の安定した交通の確保が図られます。	
	③観光客の増加や市場の拡大、企業誘致、雇用の確保に効果があります。	
	④救急搬送の時間短縮により、大きな安心が得られます。	
	⑤交流拡大と災害時の相互応援の強化につながります。	
2	北陸新幹線	
(1)	北陸新幹線とは	10
(2)	北陸新幹線の整備効果	11
	①日本海側の国土軸が強化され、安全な国土づくりに寄与します。	
	②生活範囲が変わり、ビジネスの可能性も広がります。	
	③移住や二地域居住の増加が期待できます。	
3	大野市の取り組み	
(1)	中部縦貫自動車道県内全線開通及び 北陸新幹線金沢・敦賀開業前後の主な出来事	13
(2)	令和11年度までに取り組む事柄	14
	①中部縦貫自動車道・幹線道路網の整備	
	②産業ブランド力の向上と観光誘客の推進	
	③公共交通手段の確保	
	④雇用の確保と働く場の整備	
	⑤定住サポート	

1 中部縦貫自動車道

(1) 中部縦貫自動車道とは

中部縦貫自動車道は、長野県松本市と福井市を結ぶ一般国道158号の自動車専用道路として、長野県松本市を起点に飛騨地方、美濃地方の険しい山岳地帯を通り、福井市に至る延長約160km（東海北陸自動車道との重複区間約40kmを除く）の高規格幹線道路です。

高規格幹線道路とは、自動車の高速交通の確保を図るために真に必要な道路で、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路のことです。

中部縦貫自動車道は、この高規格幹線道路網の一翼を担っており、現在、国土交通省によって整備が進められていますが、整備後も県内区間は全線無料で通行することができます。

大野油坂道路については、大野 IC～勝原 IC 間（10.0km）が令和5年（2023年）3月19日に開通、勝原 IC～九頭竜 IC 間（9.5km）は令和5年（2023年）10月28日に開通し、九頭竜 IC～油坂出入口（仮称）間（15.5km）は令和11年（2029年）春に開通する予定です。一日も早く全線開通を実現できるよう、引き続き要望していきます。

岐阜県高山市から長野県松本市までの区間については、安房峠道路のみ供用開始されており、早期全線開通がなされるよう協力して取り組んでいます。

◆中部縦貫自動車道の整備状況



道路名	①永平寺大野道路	②大野油坂道路	③油坂峠道路	東海北陸自動車道	④高山清見道路	⑤高山東道路	⑥安房峠道路	⑦	⑧松本波田道路
区間名	福井北 JCT・IC～大野 IC	大野 IC～油坂出入口	油坂出入口～白鳥 IC	白鳥 IC～飛騨清見 IC	飛騨清見 IC～丹生川 IC	丹生川 IC～平湯	平湯～中ノ湯	中ノ湯～波田 IC	波田 IC～松本 JCT
距離 (km)	26.4	35.0	11.4	41.4	24.7	23.0	5.6	27.0	5.3
供用開始	H29.7.8	大野 IC～勝原 IC R5.3.19 供用開始 勝原 IC～九頭竜 IC R5.10.28 供用開始 九頭竜 IC～油坂出入口 令和11年春供用予定	H11.11.1	H12.10.7	飛騨清見 IC～高山 IC H19.9.29		H9.12.6		

(福井県「中部縦貫自動車道パンフレット」引用)

中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期整備



(福井県「福井県の道路2025」引用)

(2) 中部縦貫自動車道の整備効果

①北陸圏・中京圏・関西圏・関東圏を結ぶ広域ネットワークが構築されます。

大野市と関東圏を最短距離で結び、北陸圏・中京圏・関西圏・関東圏を結ぶ広域ネットワークが構築されます。

特に、中京圏へのアクセスが格段に向上し、交流人口の増加や物流の拡大が期待され、これまで以上に結び付きが強まります。



(中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会資料引用)

②広域的な迂回ルートと冬期間の安定した交通の確保が図られます。

北陸自動車道、東海北陸自動車道、長野自動車道をつなぐことにより、広域的な迂回ルートが形成されます。

トンネル区間が多いため雪の影響を受けにくく、道路の形状も良いことから、冬期間の安定した交通の確保が図られます。

令和7年3月、国道158号（上半原地係）で大規模な土砂崩れが発生し、岐阜県側との往来ができなくなっていました。7月に仮設道路（迂回路）が完成し、通行が可能となりました。安定した交通の確保のために、中部縦貫自動車道の必要性はますます高まっています。

近年の災害状況

令和7年3月19日の斜面崩壊

- ◆ 中部縦貫自動車道と並行する現道である
国道158号が斜面崩壊で通行止め（岐阜県境付近）
これにより、**中京圏との物流・観光ルートが寸断**

国道158号の斜面崩壊の様子



(令和7年3月撮影)

令和6年1月23～25日の大雪

- ◆ 東日本と西日本をつなぐ中部圏の大動脈である
北陸自動車道、国道8号等が大雪により通行止め
- ◆ これにより、北陸と中京、関西間の人の往来や物流が停滞
- ◆ 中部縦貫自動車道・国道158号が**広域迂回ルートとして機能**

【※過去の災害では、令和4年8月大雨、令和3年1月大雪、平成30年2月大雪でも主要道路が寸断し、同様の影響】

令和6年1月大雪による影響



(中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会資料引用)

③観光客の増加や市場の拡大、企業誘致、雇用の確保に効果があります。

大野市周辺を訪れる県外からの観光客で最も多いのは、中京圏からの観光客です。中部縦貫自動車道の県内全線開通は、東海北陸自動車道との接続により中京圏からのアクセスが向上し、交流人口の増加が見込まれます。

また、隣県や大都市へのアクセスが向上することにより、安定した物流ルートが確保され、農産物などの出荷量の増加、企業立地の促進や市場の拡大、働く場の確保が図られます。

中部縦貫自動車道の整備の進ちょくとともに、観光や物流の面でさまざまな効果が現れています。

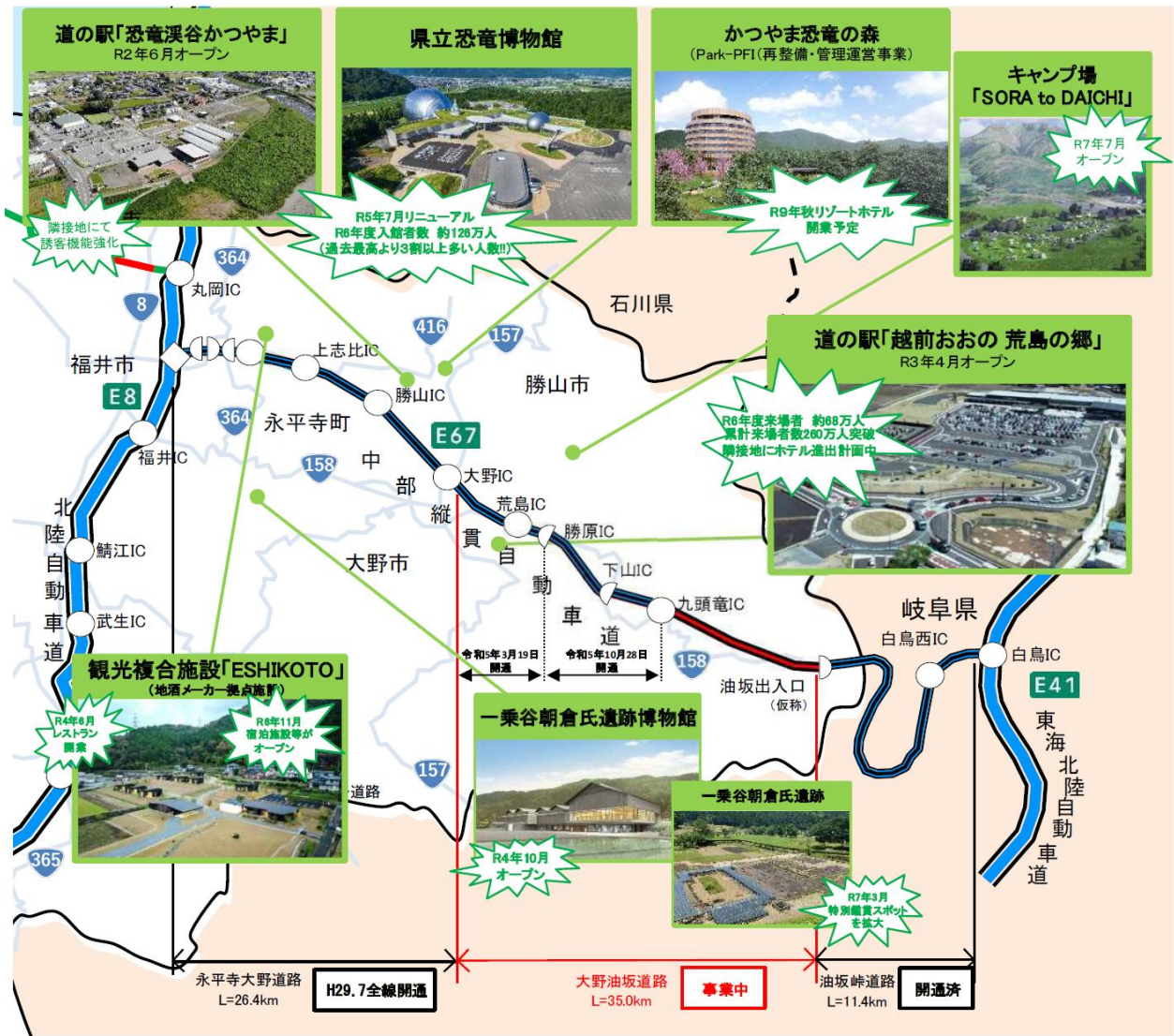
- 大野市の令和6年の観光入込客数は令和4年に比べて約4%増加し、約214万人となりました。
- 令和3年4月、道の駅「越前おおの 荒島の郷」を開駅し、令和7年9月には累計来場者数が300万人を突破しました。
- 令和7年1月にオープンした屋内型のこどもの遊び場「おおの天空パーク OSORA」の開館後1年間の市外からの来場者は約4万5千人にのぼり、全体で約6万5千人となりました。
- 六呂師高原では、令和7年7月に奥越前パークコンソーシアム合同会社が運営するキャンプ場「SORA to DAICHI」がオープンしました。
- 市内農家から越前おおの農林楽舎に出荷され、道の駅などで販売される農林産物の令和6年度の売上高が過去最高となりました。
- 道の駅や飲食店等への販売量の増加により、九頭竜まいたけの令和6年度の売上高が過去最高となりました。
- 大野油坂道路事業化後に進出・増築のあった企業は7社となり、約320人の雇用が生まれています。
- 富田産業団地で令和5年3月に株式会社モンベルの物流拠点が操業を開始し、令和8年6月には2棟目となる物流拠点の操業開始が予定されています。



(おおの天空パーク OSORA)

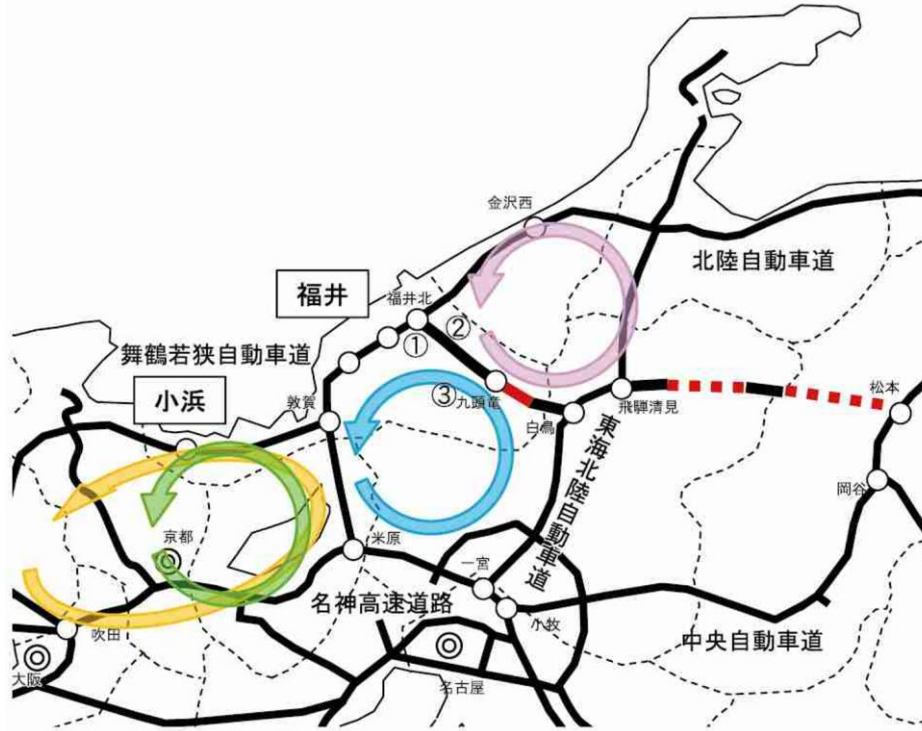


(SORA to DAICHI)



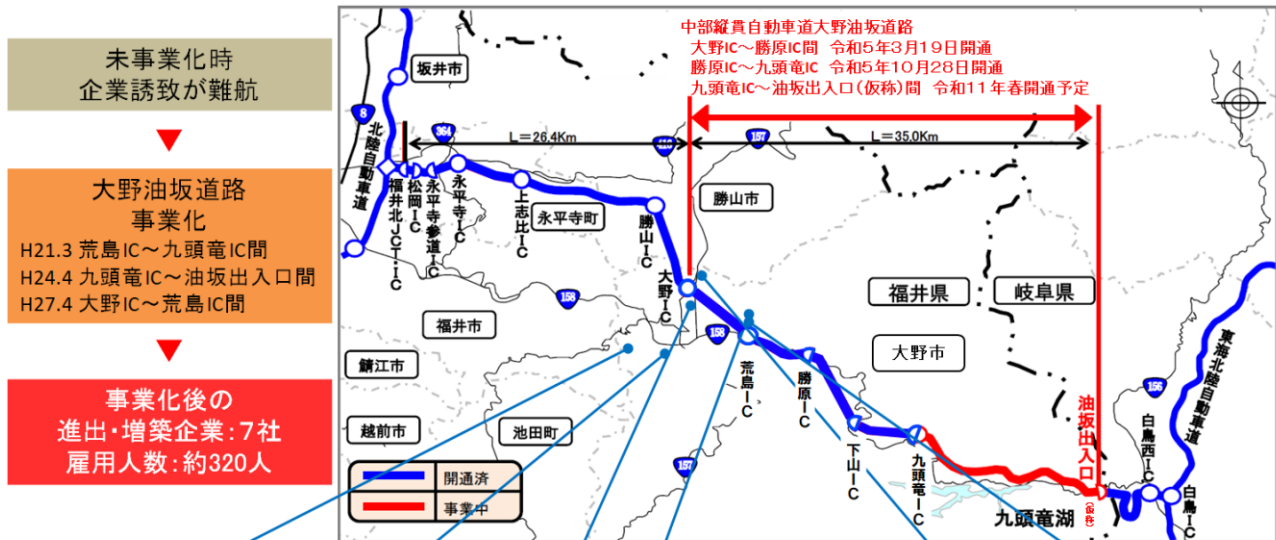
(中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会資料引用)

◆隣県・大都市へのアクセス向上により、安定した物流ルートや新たな周遊観光ルートの構築が図られます。



(福井県「中部縦貫自動車道パンフレット」引用)

◆中部縦貫自動車道の整備を見越して企業が進出



未事業化時
企業誘致が難航

大野油坂道路
事業化
H21.3 荒島IC~九頭竜IC間
H24.4 九頭竜IC~油坂出入口間
H27.4 大野IC~荒島IC間

事業化後の
進出・増築企業: 7社
雇用人数: 約320人

小山工業団地	中据工業団地	大野市堂本	大野市七板		青島工業団地	大野市富田産業団地
タニコー(株) 大野工場	(株)エツミ光学 大野工場	豊実精工(株) 福井大野工場	ファーストウッド(株) 大野工場	(株)福井グリーン パワー	ニチコン製造(株) 富田工場	(株)モンベル 北陸モンベル 大野物流センター
敷地面積 約10ha 雇用人数 13人	敷地面積 約2ha 雇用人数 37人	敷地面積 約0.6ha 雇用人数 21人	敷地面積 約15ha 雇用人数 約150人	敷地面積 約3ha 雇用人数 24人	敷地面積 約4ha 雇用人数 29人	敷地面積 約8.4ha 雇用人数 44人 + 約20人(予定)
平成29年5月 (流通センター開設) 令和2年5月 (FMSセンター開設)	平成24年9月(増築) 平成30年4月(クリーンルーム) 令和3年3月(増築)	平成30年3月	平成23年4月	平成28年4月	平成20年6月(増築) 平成24年4月(再増築)	令和5年3月(1棟目操業) 令和8年6月末(2棟目操業予定)

④救急搬送の時間短縮により、大きな安心が得られます。

従来、和泉地区から嶺北地方で唯一の第三次救急医療施設（福井県立病院）に向かう場合、搬送時間は1時間以上を要していましたが、大野 IC から九頭竜 IC までの開通により、搬送時間が18分短縮されたとともに、道路線形が改善され走行性が向上したことで、搬送患者の負担が大きく軽減されました。

地域生活の安全・安心の確保

嶺北地方東西の基幹交通網の構築により、地域生活の安全・安心が確保されます。

◆医療機関へのアクセス向上

奥越地方から福井市周辺に立地する福井県立病院など高次医療機関までの搬送時間が短縮され、医療サービスの向上が図られます。

◆安定した交通路の確保

現道の国道158号は、雪や事故のため、たびたび通行止が発生しています。また、カーブ・屈折区間等が多く、事故割合が高くなっています。

中部縦貫自動車道は、トンネルや橋梁が多いため、雪の影響を受けにくく、道路の形状も良いことから、安定した交通路の確保が図られます。



(福井県作成「中部縦貫自動車道パンフレット」引用)

⑤交流拡大と災害時の相互応援の強化につながります。

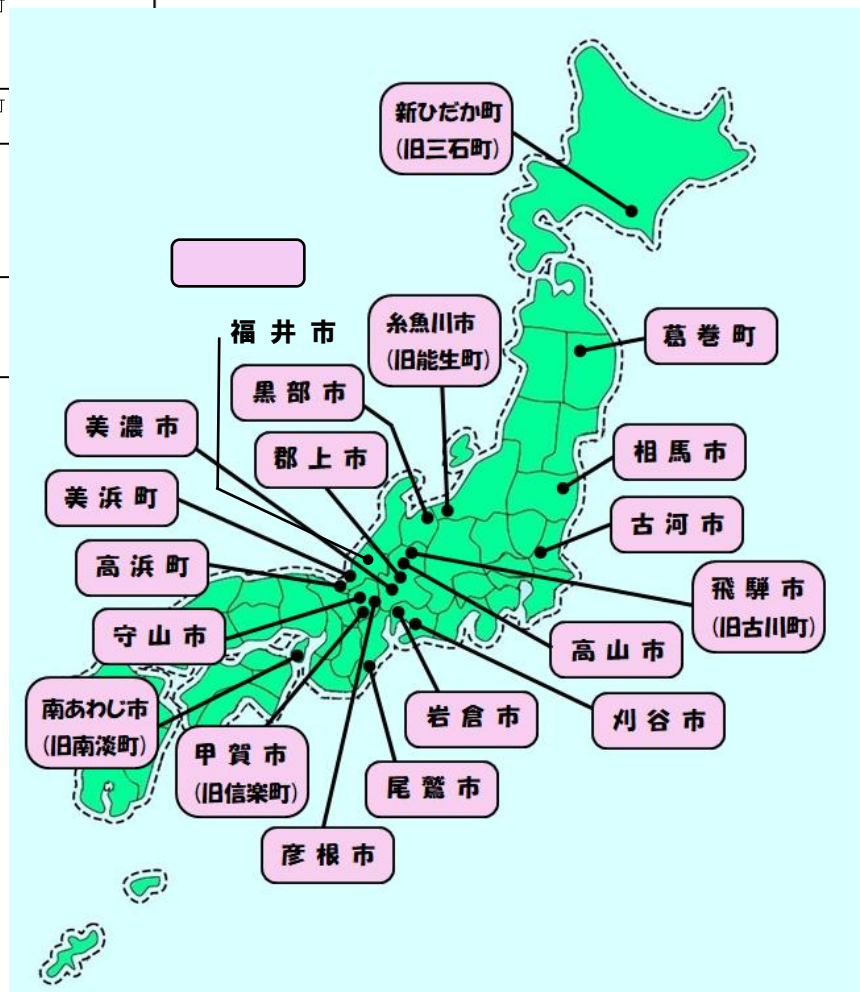
大野市では、姉妹都市である茨城県古河市や友好交流市である愛知県岩倉市をはじめ9市町と積極的に交流を図っています。また、大規模災害時における相互応援協定を県内外合わせて10市町と締結しています。

中部縦貫自動車道が東海北陸自動車道とつながることで、より多方面の市町との交流が広がり、経済交流への発展が期待されます。さらに、迅速かつ円滑な応援・受援対応が可能となり、被災地住民の安全・安心の確保につながります。

◆大野市と交流を行っている市町

◆災害時相互応援協定の締結などを行っている市町

茨城県古河市	姉妹都市 姉妹都市の災害時における相互応援協定都市	
愛知県岩倉市	友好交流都市 災害時における相互応援協定締結都市	
北海道新ひだか町	友好市町	
岩手県葛巻町		
新潟県糸魚川市		
兵庫県南あわじ市		
福井県福井市		越前美濃街道広域観光交流都市
岐阜県郡上市	越前美濃街道広域観光交流都市	
岐阜県美濃市	災害時相互応援協定締結市町	
富山県黒部市	災害時相互応援協定締結市町	
三重県尾鷲市		
福井県高浜町		
福島県相馬市		
滋賀県守山市		
岐阜県高山市		災害時相互応援協定締結市町 ゆかりのあるまち
愛知県刈谷市		ゆかりのあるまち
滋賀県甲賀市		
滋賀県彦根市		
岐阜県飛騨市		
福井県美浜町	原子力災害時広域避難元	
福井県池田町		
静岡県袋井市		



2 北陸新幹線

(1) 北陸新幹線とは

北陸新幹線は、上信越・北陸地方を經由して東京と大阪を結ぶ延長約700kmの新幹線鉄道で、我が国の大動脈として地域の発展に大きく寄与する重要な路線です。

東京駅から長野駅までは、長野オリンピックに合わせて平成9年10月に開業しており、平成17年4月には福井駅部が認可され、平成21年2月に完成しました。

平成24年6月には金沢駅と敦賀駅間がフル規格で認可され、平成27年3月には長野駅から金沢駅までが開業し、令和6年(2024年)3月16日に金沢駅から敦賀駅まで開業しました。

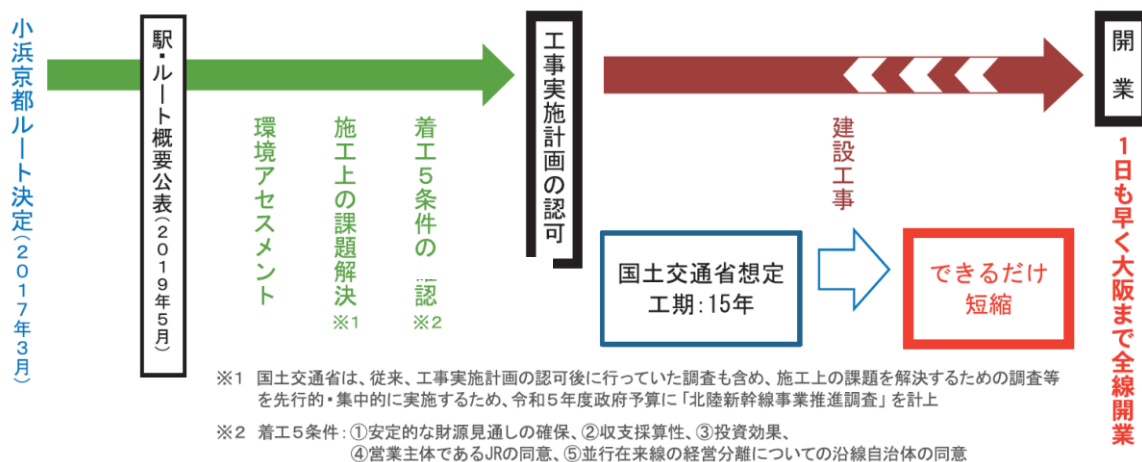
平成29年3月には、北陸新幹線の敦賀・大阪間を小浜京都ルート【敦賀駅～小浜市(東小浜)附近～京都駅～京田辺市(松井山手)附近～新大阪駅】により整備されることが決定しました。現在、敦賀・大阪間では環境アセスメントが行われています。

北陸新幹線のルート



(福井県「北陸新幹線パンフレット」引用※一部加筆修正)

◆全線開業までのスケジュール



(福井県「北陸新幹線パンフレット」引用)

(2) 北陸新幹線の整備効果

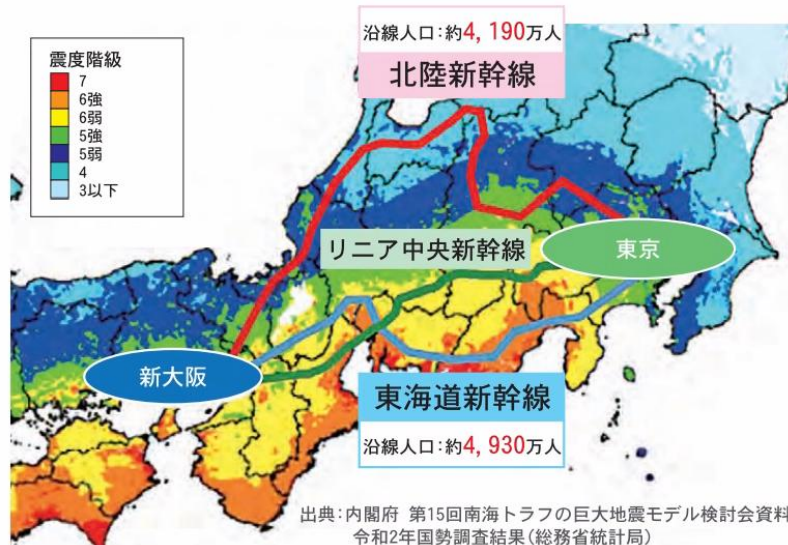
①日本海側の国土軸が強化され、安全な国土づくりに寄与します。

阪神淡路大震災や東日本大震災などを経験し、近い将来、南海・東南海・東海地震の発生が危惧されている中、災害に強い国土構造が求められています。

北陸新幹線は、日本海側の国土軸の強化と国土強靱化を実現し、災害時には、東海道新幹線と相互に支え合う機能を発揮します。

また、平成30年2月の大雪の際にも北陸新幹線は運転を続けました。

◆南海トラフ地震の震度分布と各新幹線のルート



(福井県「北陸新幹線パンフレット」引用)

②生活範囲が変わり、ビジネスの可能性も広がります。

北陸新幹線金沢・敦賀間開業により、県内の各新幹線駅から東京までが直結し、関東、信越、北陸など沿線地域へのアクセスが向上しました。各新幹線駅への県外来訪者数は開業後1年間で約2割増加しており、新たに大野市を旅行先に選んでもらえるなど、観光やビジネス拡大の可能性が広がります。

また、離れて暮らす家族や友人との往来や、帰省時に便利になります。

福井駅から各都市間への所要時間（全線開業後）



(福井県「北陸新幹線パンフレット」引用)

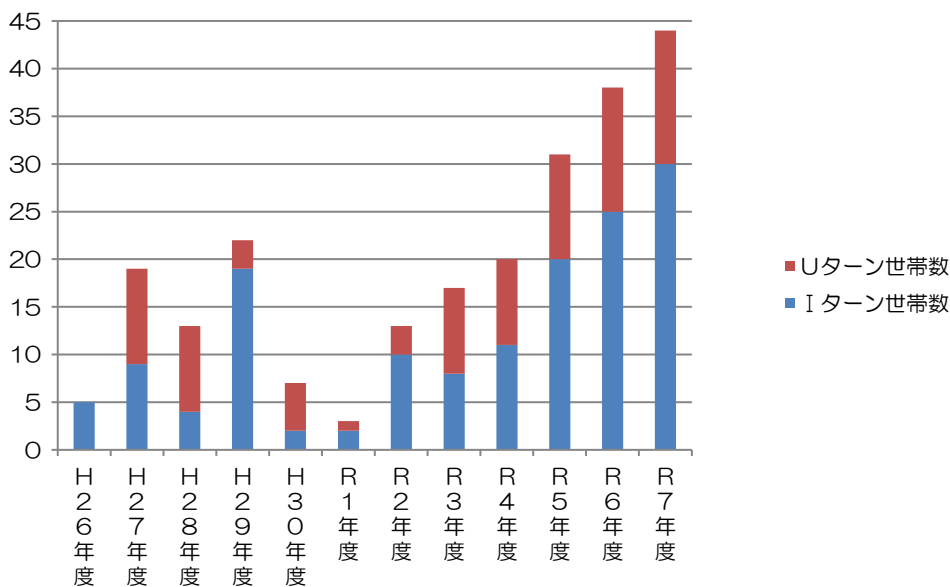
③移住や二地域居住の増加が期待できます。

大都市圏に暮らす人たちの間では、ゆっくりと思いつきの生活の仕方です。暮らしのスタイルや、健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルや地方回帰の関心が高まる中で、テレワークや副業など、働き方が多様化しています。

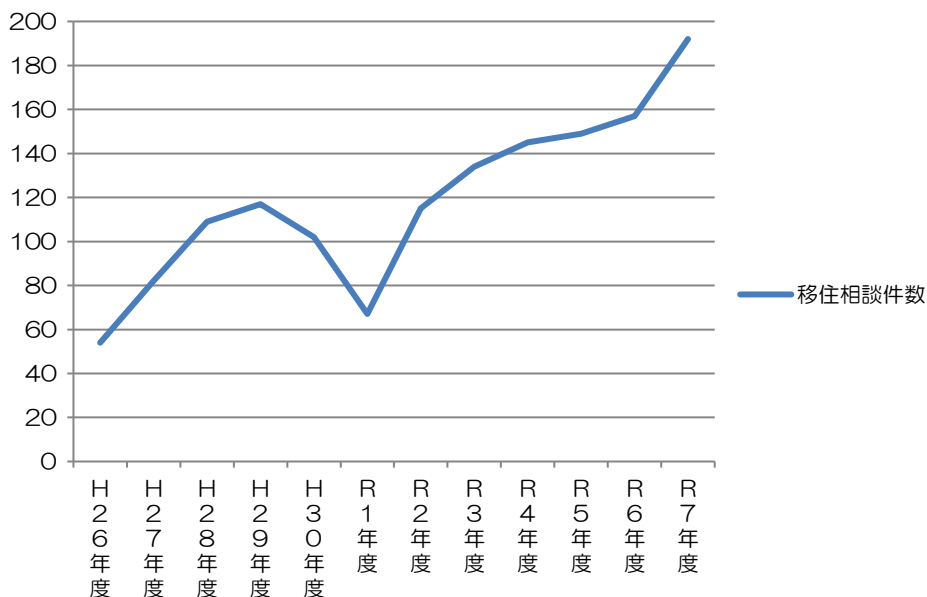
豊かな自然や清らかな水、ゆったりとした田舎暮らしが見られる大野市でもIターンやUターン、移住相談件数は増加傾向にあり、中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線の延伸により利便性が向上することで、ますます増加が見込まれます。

さらには、平日は都市圏で仕事をし、週末には田舎暮らしをする「二地域居住」についても、増加が期待されます。

世帯数 市の助成制度を活用して移住した世帯数



件 移住相談件数



3 大野市の取り組み

中部縦貫自動車道大野油坂道路の大野IC～勝原IC間が令和5年（2023年）3月19日に開通、勝原IC～九頭竜IC間については令和5年（2023年）10月28日に開通し、残る九頭竜IC～油坂出入口（仮称）間については、令和11年（2029年）春の開通を予定しています。北陸新幹線は令和6年（2024年）3月16日に金沢・敦賀間が開業しました。福井県全体の高速交通ネットワークの形成が進められ、大野市ではこの機会を逃すことなく、様々な取り組みを進めています。

(1) 中部縦貫自動車道県内全線開通及び北陸新幹線金沢・敦賀開業前後の主な出来事（全体の動き）

R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R09～R11 (2027～2029)
北陸新幹線 敦賀～新大阪間ルート公表			中部縦貫自動車道大野油坂道路 大野IC～勝原IC間開通	中部縦貫自動車道大野油坂道路 勝原IC～九頭竜IC間開通 大野油坂道路 勝原・九頭竜間開通記念イベント 北陸新幹線金沢・敦賀開業 国道158号 境寺～計石BP開通を要望 ※福井県道路整備プログラムに計画期間（2030年）内の完成予定と記載			(令和11年春)中部縦貫自動車道 大野油坂道路九頭竜IC～油坂出入口 (仮称)間開通	
「越前おおのの水の がっこう」オープン		道の駅「越前おおの 荒島の郷」開駅 大野市富田産業団地 分譲開始 「九頭竜川・荒島岳」エリアがジャパ ンエコトラック公式ルートに登録 観光を軸に稼ぐ新組織 「越前おおの観光ビューロー」の設立		星空保護区®の認定 「星空の街・あぞらの街」全国大会 全国販売促進 会議開催		大野市屋内型子どもの遊び場「おおの天空パークOSORA」オープン 大野市もロケ地となった映画「雪の花 -ともに在りて-」が全国公開 北陸デスティネーションキャンペーン開催 巨木を語ろう全国フォーラム 福井・大野大会 水資源保全全国自治体連絡会シンポジウム 名水マラソン60周年 金森長近公生誕500年 大野市制70周年		
平成28年度～第五次大野市総合計画(後期基本計画)	第六次大野市総合計画(前期基本計画)						第六次大野市総合計画(後期基本計画)	
平成29年度～越前おおの型食・農業・農村ビジョン(改訂)	(改訂)						(新たなビジョン)	
平成30年度～越前おおのブランド戦略(改訂)	越前おおの産業ブランド力向上戦略						(新たな産業戦略)	
平成29年度～越前おおの観光戦略ビジョン(改訂)								
大野市地域公共交通網形成計画					六呂師高原開発計画	大野市地域公共交通計画(～R10)		
ラグビーW杯2019	東京オリンピック・ パラリンピック			日本スポーツマスターズ 2023福井大会 恐竜博物館リニューアル オープン	第47回全国育樹祭inふくい	大阪・関西万博 第9回「山の日」全国大会 FUKUI2025	全国過疎問題 シンポジウム2026Inふくい ワールドマスターズ ゲームズ2027関西大会 愛知・名古屋アジア競技大会・ アジアパラ競技大会	

※時期についてはおおよそのイメージで示しています

(2) 令和11年度までに取り組む事柄

①中部縦貫自動車道・幹線道路網の整備

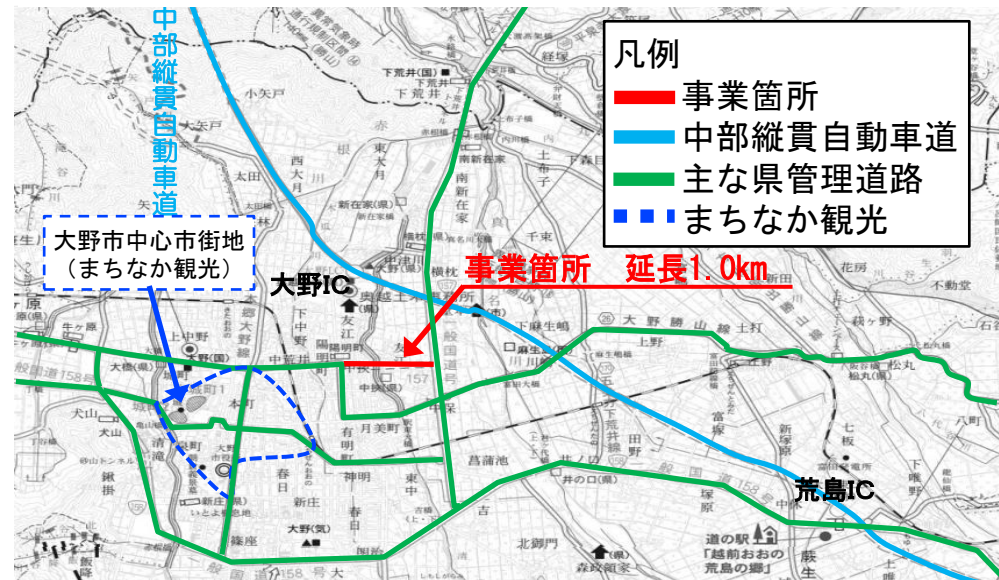
施策	R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
広域道路ネットワークの整備	中部縦貫自動車道大野油坂道路の整備促進を要望 ★										
	★大野IC～勝原IC開通					★勝原IC～九頭竜IC開通			(令和11年春)九頭竜IC～油坂出入口(仮称)開通		
	携帯電話不感地帯解消に向けた要望活動の強化										
	交通量の増加による生活環境等の変化への対応										
	国道158号境寺・計石バイパス、国道157号4車線化の整備促進						国道158号(上半原地係)の早期復旧を要望				
一般県道皿谷大野線(中挟～中保)及び一般県道白山中居神社朝日線の整備促進を要望											

中部縦貫自動車道大野油坂道路		
区間	大野IC～勝原IC	勝原IC～九頭竜IC
開通日	令和5年3月19日	令和5年10月28日

一般県道皿谷大野線(中挟～中保)	
早期開通を要望	



(福井県「福井県の道路2025」引用)



- 凡例
- 事業箇所
 - 中部縦貫自動車道
 - 主な県管理道路
 - まちなか観光

②産業ブランド力の向上と観光誘客の推進（1）

施策	R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
周遊滞在型観光の推進と戦略的プロモーション	観光誘客推進に向けた情報発信の強化										
	まいおおのフォトコンテストの実施（H30～） ★大阪・関西万博、ツーリズムEXPO出展 ★新観光ポスター掲示 観光ガイドHPリニューアル ビッグデータの活用による観光分析の強化 新観光パンフレット配架★ 道の駅周遊マップの作成★ 中京圏をメインターゲットとした情報発信の強化 奥越明成高校と連携し中部縦貫自動車道をPR ★九頭竜紅葉まつりにて中部縦貫自動車道をPR 大野市インバウンド観光コンセプトの作成 外国人観光客の受入環境の充実や情報発信の強化 ★観光施設への多言語音声翻訳ツールの導入 県内全線開通に向けた公共サインの効果的な更新・設置										
周遊滞在型観光の推進と戦略的プロモーション	星空・化石・歴史などの観光資源の活用、観光客向けの体験・滞在メニューの企画・開発支援										
	★星空ハンモック事業開始（H30～） ★星降るランタンナイト開始（H30～） ★光害対策防犯灯の設置 ★星空観望バスツアーの実施 ★星空保護区®の認定取得（アーバン・ナイトスカイプレイスではアジア初） ★「星空の街・あおぞらの街」全国大会開催 ★星空保護区®認定地連携パンフレットの作成 ★六呂師高原のキャンプ場「SORA to DAICHU」オープンの支援 六呂師高原での音楽フェスの開催を支援 ★六呂師高原のフォトスポット等の製作を支援 ★ジャパンエコトラック開始 ★九頭竜ぐるっとペダル開始 ★恐竜モニュメントの設置 ★九頭竜湖駅舎装飾 ★ホロッサ5周年記念事業 ★ホテルフレアール和泉リニューアル ★和泉郷土資料館を「くすりゅう化石ラボガ・オーノ」としてリニューアル ★国民宿舎パークホテル九頭竜恐竜ルームのオープン 越前大野城インスタ映え装飾 ★武家屋敷旧内山家絵障子完成 ★「天空の城」VR体験コーナーの設置 ★大野城城内装飾完成 ★映画「雪の花ーともに在りてー」が全国公開（撮影協力） ★大野まちつむぎ開始 ★レンタパラソルいろとりどり開始 ★2.43関連イベント 越前おおのワンハンドグルメの開発 ★大手門広場にフォトスポットを整備 雪、星空、名水を活かした民間の観光コンテンツ開発への補助 星空写真の募集・展示 六呂師高原の滞在環境を支える水供給施設の整備 ★ホロッサとガ・オーノへの専門スタッフの配置 ★ミルク工房奥越前に化石展示を新設 ワクワク城下町遠足事業（小中高生の遠足の誘客） 越前おおの ぶらり城下町散策事業（団体ツアーの誘客） 宿泊ありがとうキャンペーン（宿泊の促進） 多様な宿泊施設の整備促進 七間通りの美装化 亀山公園の園路等の改修 観光文化施設フリーパスチケットの試験販売 観光文化施設フリーパスチケットの販売										

②産業ブランド力の向上と観光誘客の推進（2）

施策	R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)		
事業者の稼ぐ力の向上と創業・事業承継の支援	<p>新たなビジネスの創出や商品の高付加価値化の支援、越前おおのブランドの情報発信</p> <p>★越前おおの産業ブランド力向上戦略の策定 ★消費行動を促す情報発信 ★夢グループとコラボしたPR動画を制作 ★夢グループとコラボしたPR動画を制作（第2弾）</p> <p>★新たな産業戦略の策定</p> <p>稼ぐ力応援事業</p> <p>商品の高付加価値化による「大野の逸品」創出支援</p> <p>結のビジネスプランコンテストの開催</p> <p>ビジネスプラン実現の支援</p> <p>中京圏をメインターゲットとした情報発信の強化（再掲）</p> <p>インターネットやSNSを活用した販路拡大の支援</p> <p>ふるさと納税ポータルサイトにおける情報発信の強化</p> <p>ふるさと納税返礼品の生産力向上の支援</p> <p>稼ぐ力の向上につながるイベントの支援</p>												
	道の駅の魅力向上とまちなかの賑わい創出	<p>★道の駅「越前おおの 荒島の郷」開駅</p> <p>道の駅産直の会や出店者協議会との情報共有、商品開発の支援</p> <p>おおの天空パークOSORAの情報発信や遠足など団体利用のPR、魅力的なイベントの実施</p> <p>七間通りの美装化（再掲）</p> <p>大野ならではの商品や観光情報の発信と周遊促進の強化 まちなかへの出店支援の強化</p> <p>★道の駅「九頭竜」生産物直売所の農産物等の販売を和泉ふれあい会館に集約し、利用客の利便性を向上</p>											
		農林水産物の魅力向上と販売支援	<p>農林水産物の魅力向上、「越前おおの里の恵み」認証制度と「越前おおの産」産地保証制度の推進</p> <p>大野産米の生産振興、里芋やネギなど特産作物の生産・出荷奨励支援、6次産業化や農商工連携の促進、園芸作物や特用林産物の生産促進</p> <p>ふるさと納税を活用した農林産物のブランド化・生産振興</p> <p>「おいしいお米コンテスト」の開催と金賞受賞米の販売</p> <p>特用林産物の新規顧客やリピーターの獲得の支援</p> <p>大野産食材を使った新メニュー開発</p>										

③公共交通手段の確保

施策	R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)		
移動手段の確保・維持	最適な公共交通体系の構築												
						★交通ネットワークの再構築							
	広域公共交通の確保・維持					交通事業の担い手の確保・維持							
									公共交通体系の最適化に向けた調査・分析		公共交通体系の最適化の検討		
	バス運行の充実												
	高速バスの運行に向けた誘致活動												
					市営バス道の駅線の運行			市営バス和泉大野線の運行（中部縦貫自動車道大野油坂道路を活用）					
	JR越美北線の利用促進												
	北陸新幹線敦賀開業や利用者のニーズにあった運行ダイヤの検討												
	首都圏や中京圏をターゲットとした新たな周遊ルートの開発												
県・JR・福井市・大野市連携協定や「越美北線と乗り合いバスに乗る運動を進める会」（乗る会）など関係団体との協働による沿線地域への観光施策の企画・実施													
		★県・JR・福井市・大野市連携協定締結			★御乗印型乗車記念証「御乗印」販売			★イベント列車実施			★九頭竜湖駅駅舎装飾		
						「ミニ北陸新幹線・越美北線車両見学会」の開催		利用促進助成金の拡充			「乗る会」による「3乗アクションプラン」の作成・実行		
								北陸新幹線乗り換えわくわくキャンペーンへの参加					
★恐竜・化石と星空をイメージした ラッピング列車運行													
公共交通の利便性の向上と利用促進	沿線イベント等と連携した利用者への買い物補助券配布												
							市営バス、まちなか循環バスの位置情報のWEB公開						
								まちなか循環バスのデジタル定期券の販売					

JR越美北線の観光利用促進に関する連携協定（令和3年3月5日～令和9年3月31日）

福井県、福井市、大野市、西日本旅客鉄道株式会社金沢支社が相互に協力し、北陸新幹線金沢・敦賀開業を生かした越美北線の観光利用促進及び沿線地域の観光振興を図ります。

- 車両ラッピングや駅舎装飾などによる観光資源としての越美北線の魅力向上
- 駅発着のまち歩きや体験プランなど地域にある観光資源の磨き上げなど周遊滞在型観光の促進
- 越美北線列車内に自転車を持ち込み可能としたサイクルトレインの試験運行を実施
- 越前大野駅から九頭竜湖駅までの区間で、車窓絶景ポイントにおける徐行運転を導入

幻の越美線をつなぐツアー

関東、中京方面をターゲットに、ローカル線の魅力を発信するとともに、新たな周遊ルートを提案するため、本当はつながるはずだった、越美北線、長良川鉄道に沿って流れる九頭竜川と長良川の絶景を楽しむツアーを試行的に実施します。

- 令和4年度 モニターツアーを実施（5、8、10、11月）
- 令和5年度 民間事業者による商品化が決定
- 令和6年度 民間事業者によるツアーを実施

④雇用の確保と働く場の整備

施策	R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
地域特性を生かした 企業の創出	中部縦貫自動車道の開通効果を生かせる企業や若年層の関心が高い情報技術関連企業などの積極的誘致										
	大野市富田産業団地の整備	★分譲開始		★北陸モンベル 大野物流センター操業開始				★北陸モンベル 大野物流センター (2棟目) 操業開始予定			

大野市富田産業団地の概要

所在地	福井県大野市七板
所有者	大野市土地開発公社
面積	団地総面積 約17ha 分譲可能面積 約3.6ha (全体約12haのうち分譲済約8.4ha)
分譲価格	①区画：5,600円/㎡ (面積：16,781.99㎡) ④区画：6,000円/㎡ (面積：19,434.18㎡)
分譲開始時期	令和3年4月
立地可能業種	製造業、物流関連産業、情報サービス業等
用途地域	用途指定なし 建ぺい率70/100 容積率200/100
交通 (車ご利用の場合)	<ul style="list-style-type: none"> ■高速道路 中部縦貫自動車道荒島ICまで1.6km (3分) 北陸自動車道福井ICまで32km (38分) 北陸自動車道福井北ICまで33km (30分) 東海北陸自動車道白鳥ICまで47km (49分) ■鉄道 JR越前富田駅まで1.2km (2分) ■港湾 福井港まで52km (1時間2分) ■空港 小松空港まで78km (1時間4分※北陸自動車道利用)
用水	地下水：使用可能
排水	企業内処理 → 農業用排水路 (地元との協議が必要です)
電力	普通高圧：6,600V (特別高圧：電力会社との協議が必要です)
環境施設面積率	15% (うち緑地面積率10%) ※市が確保済み
公害防止協定	市との間で公害防止協定の締結が必要です

位置図



⑤定住サポート

施策	R元年度 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
移住定住の情報発信と支援の強化	移住定住応援サイトの運営										
	IJU（移住）サポートチームによる移住希望者の定住支援、おおの暮らし体験プログラムの実施										
	★U・Iターン等支援金	★U・Iターン移住就職等支援金（東京圏型）	★来て見て住んで応援パッケージ ★U・Iターン移住就職等支援金（全国型） ★移住定住サイトリニューアル				★移住PR動画追加制作	WEB広告運用	WEB広告運用		
住まいの充実と確保を支援	空き家情報バンク・空き家希望者バンクの運営、定住のための住宅取得やリフォームに対する助成										
		★空き家希望者バンクの運用開始									

大野に来て・見て・住んで 応援パッケージ

「相談・体験」	○移住全般の相談（オンライン相談可）、希望に添った移住体験 ○U・Iターン移住就職等支援金（東京圏型・全国型） 県内企業に就職した県外移住者へ移住支援金 ○認知度向上と来訪喚起を図るための移住PR動画を制作 ○WEB広告の運用	「仕事」	○保育人材の就労支援 県外から市内の保育所などに就労した保育士等に就労支援（最大30万円） ○U・Iターンの就職活動等を支援 ・市内会社訪問等の移住活動に係る交通費や宿泊代、レンタカー代を支援（最大2万9千円） ・東京圏に住む学生が県内に就職し市内に移住する場合に、就職活動にかかる交通費や引っ越し経費を支援（交通費最大1万5千円、移転費最大10万8千円） ○市の認定企業や人材不足業種を応援 移住支援金（全国型）の対象者のうち、市内就業先が市認定企業または県が定める人材不足業種の場合は、加算額を上乗せ
	「住まい」		「子育て」
	○空き家情報バンク、空き家希望者バンク 移住定住応援サイトで空き家物件、空き家希望者の紹介、バンク登録された物件の家財処分経費の補助や管理代行サービス費の補助 ○住まいづくり支援 中古住宅取得支援（最大90万円） 中古住宅取得後のリフォーム支援（最大60万円） ※空き家情報バンクは、定住促進事業の一環として、売却・賃貸が可能な市内の「空き家」の情報を所有者から募集し、空き家物件情報を市のホームページ上で紹介し、購入・借家を希望している人に提供しています。 ※空き家希望者バンクは、移住者などの空き家を探している人の家族構成や探している空き家の条件をホームページで紹介し、空き家を探している人と空き家を持っている人とのマッチングの促進を図ります。		ライフステージに応じたきめ細かな子育て支援と総合的な相談支援の充実 ○「大野ですくすく子育て応援パッケージ」の発行 ○「大野市こども家庭センター」で専門職による相談・支援の実施 ○屋内の大空間に大型遊具を設置した「おおの天空パーク OSORA」での遊び場の提供 ○全小中学校で自校調理により温かくておいしい給食の提供



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。